

〈若きポーランド〉 —色彩と魂の詩 1890-1918 〈Young Poland〉 —Polish Art 1890-1918

会 期 | 2025 3月25日(火)
— 6月29日(日)

会 場 | 京都国立近代美術館
(京都市左京区岡崎門勝寺町)



開館時間 | 午前10時～午後6時 ※金曜日は午後8時まで ※入館は閉館の30分前まで
休 館 日 | 月曜日(ただし5月5日は開館)
観 覧 料 | 【当日券】一般:2,000円/大学生:1,100円/高校生:600円
※心身に障がいのある方と付添者1名は無料。
※ひとり親家庭の世帯員の方は無料。入館の際に証明できるものをご提示ください。
※本料金でコレクション展もご覧いただけます。
※日時予約制ではございません。

主 催 | 京都国立近代美術館、クラクフ国立博物館、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿、京都新聞

名誉後援 | ポーランド共和国文化・国家遺産大臣

後 援 | ポーランド共和国外務省、日本外務省

協 力 | ポーランド広報文化センター

制作協力 | NHK プロモーション

※本展は、ポーランド共和国文化・国家遺産省の助成を受けて実施します。
※本展は、EXPO2025大阪・関西万博ポーランドパビリオン関連イベントの一環として開催します。



Ministry of Culture and National Heritage
Republic of Poland



ポーランド広報文化センター
INSTYTUT POLSKI TOKIO



Poland.
Expo2025.Osaka.Kansai

表紙:(左上)カジミェシュ・ブジョフスキ[デザイン]、アントニーナ・シコルスカ・キリム工房、チェルニフ[製作]、《キリム》、1906年以前、羊毛、麻、キリム技法、重入り織物、クラクフ国立博物館 (中央)オルガ・ボズナンスカ、《菊を抱く少女》(部分)、1894年、油彩/厚紙、クラクフ国立博物館蔵 (右下)スタニスワフ・ヴィスビャンスキ[デザイン]、アンジェイ・スイドル[製作]、《椅子・ソフィア&タデウシュ・ジェレンスキ夫妻邸の食堂のための家具セットより》、1904-05年、クルミ材、プラタナス材、彫刻・彩色、クラクフ国立博物館蔵

中学生以下
観覧無料

お問い合わせ | 京都国立近代美術館 <https://www.momak.go.jp/>
075-761-4111
| 展覧会公式サイト | <https://youngpoland2025.jp/>
| 展覧会公式 X | @youngpoland2025



展示室でのマナー

- ゆっくり歩いて静かに見よう
- 作品やケースにはさわらずに目で楽しもう
- 館内でメモを取るときは鉛筆を使おう

NHKから番組のお知らせ



NHK+

で見逃し配信中!

ひとりを思う、みんなのメディアへ。
放送! 100年

このジュニアガイドは「〈若きポーランド〉—色彩と魂の詩 1890-1918」の鑑賞の手引きとして小学校高学年から中学生を対象に作成しました。

監修: 三菱一号館美術館・館長 池田祐子、京都国立近代美術館 小野真司、ポーランド広報文化センター 平岩理恵

発行: 京都国立近代美術館、NHK京都放送局

編集: NATSUHARA,LLC デザイン: 栗谷川舞(スタジオデザイン)



日本との
知られざる
深いかかわり

若き

2025

3/25(火)

中学生以下 観覧無料

6/29(日)

ポーランド

— 色彩と魂の詩 —



京都国立近代美術館

NHK
ジュニアガイド

YOUNG POLAND-POLISH ART 1890-1918

1 ポーランドは どんな国？

ポーランドは、ヨーロッパの中央にあり、たくさんの国とバルト海に囲まれています。

国名の「ポーランド」(ポーランド語で Polska)は、ポーランド語の「平原/pole」ということばが語源となっています。バルト海の美しい海岸、数多くの川や湖、たくさんの山々、さらには広い砂丘、森など素晴らしい景色が広がる自然の魅力にあふれた国です。



ポーランドの首都はワルシャワで、ピアニストで作曲家のショパンが育ったところとして有名です。



古都・クラクフは中世からの世界をそのまま残した街なみが魅力で、世界中からの観光客でいつもにぎわっています。



3 日本との架け橋 フェリクス・“マンガ”・ヤシェンスキ



〈若きポーランド〉の芸術家たちに広く影響をあたえた日本美術との関係にも注目！

江戸時代後期の浮世絵師 葛飾北斎や歌川広重の作品など日本美術を愛したフェリクス・“マンガ”・ヤシェンスキは、自分の愛称に「マンガ」と名づけるほどに日本美術の大コレクターでした。

クラクフで開催したヤシェンスキのコレクションの展示会は、ポーランド美術に日本趣味がもたらされるきっかけのひとつとなり、〈若きポーランド〉の画家たちも彼のコレクションを作品に描いています。



日本の屏風の前で三味線を持つ
フェリクス・ヤシェンスキ
1906年以前、写真、クラクフ国立博物館蔵

景色や植物の配置が
似ているように見えるね！



歌川広重
神奈川八景より「内川暮雪」
1840年頃、木版／紙、クラクフ国立博物館蔵



ユリアン・ファウト
冬景色
1915年、油彩／カンヴァス、クラクフ国立博物館蔵

2 若きポーランド とは…？

ポーランドは1795年、プロイセン・オーストリア・ロシアの3国によって占領されてしまいました。なんとそこから再びポーランドとして独立を取り戻す1918年までには、123年という長い時間がかかります。

国を失った人々がポーランド人としてのささえたのが、文学や音楽そして絵画などの芸術でした。とくに19世紀の後半、文化の中心地クラクフにあった美術学校で校長をしていた画家ヤン・マテイコのもとからは、数多くの若い芸術家たちが巣立ちました。

彼らは〈若きポーランド〉と呼ばれ、ポーランドの伝統文化も学び、ポーランドの国民芸術とはどんなものかを探していきました。



オルガ・ボズナンスカ
菊を抱く少女
1894年、油彩／厚紙、
クラクフ国立博物館蔵



ヤン・マテイコ【原画】
イグナツィ・ウォビェンスキ【銅版画】
自画像
1893年【原画1892年】、エッチング／紙、
クラクフ国立博物館蔵



スタニスワフ・ヴィスビヤンスキ【デザイン】
アントニーナ・シコルスカ・キリム工房、
チェルニフ【製作】
キリム
1904年、羊毛、キリム技法、葎入りの織物、
クラクフ国立博物館蔵

4 日本の浮世絵と ポーランドの作品を比べてみよう



歌川広重
名所江戸百景 第27図「蒲田の梅園」
1857年、木版／紙、クラクフ国立博物館蔵



ヤン・スタニスワフスキ
ブランディ公園の断片
1905年頃、油彩／厚紙、
クラクフ国立博物館蔵

出品作品の約9割が日本初公開！ ポーランドの美術作品たち！

こんな機会は二度とない?! 絵画、版画、家具や工芸品をふくむ約130点のポーランド美術作品が展示される本展覧会。
特別にその一部をご紹介します!!

ポーランドの自然



スタニスワフ・ヴィトキエヴィチ
冬の里
1907年、油彩／カンヴァス、クラクフ国立博物館蔵



ヴラディスワフ・ポトコヴィンスキ
ルビナスの野
1891年、油彩／カンヴァス、クラクフ国立博物館蔵

独自の表現で、ポーランドの雄大な自然や冬の風景を描いた〈若きポーランド〉の画家たち。中には日本の浮世絵に似ているものも?!



ヤン・スタニスワフスキ
水辺のポプラ
1900年、油彩／カンヴァス、クラクフ国立博物館蔵



スタニスワフ・カモツキ
チェルナの僧院の眺め
1908年頃、油彩／カンヴァス、クラクフ国立博物館蔵

描かれている風景の季節や時間を想像してみよう

人物の表情やポーズをよく見てみよう



ヤン・マテイコ
(スタンチク) 草稿
1861年、油彩／カンヴァスの上に紙、ワルシャワ国立博物館蔵



ヤン・マテイコ
ミコワイ・コペルニク(天文学者コペルニク)のあるいは神との会話)のためのスケッチ
1871年、油彩／厚紙、クラクフ国立博物館蔵

ポーランドの歴史を描いた作品

18世紀末に他国に占領され、国がなくなってしまう時代。
画家たちは、かつてのポーランドの歴史や伝説を描きました。



ヤン・マテイコ
1683年、ウィーンでの対トルコ軍勝利伝達の
教皇宛書簡を使者デンプホフに手渡すヤン3世ゾビエスキ
1880年、油彩／カンヴァス、クラクフ国立博物館蔵



オルガ・ボズナンスカ
日本女性
1889年、油彩／板、ワルシャワ国立博物館蔵



影 響
日本からの
持ちものや
着ているものを
よく見てみよう



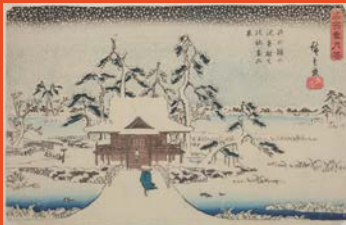
レオン・ヴィチュウコフスキ
日本女性
1897年、油彩／カンヴァス、
クラクフ国立博物館蔵



ユゼフ・パンキエヴィチ
日本女性
1908年、油彩／カンヴァス、
クラクフ国立博物館蔵

ポーランドの芸術家たちは、ヤシェンスキと彼の日本美術コレクションを通して、日本美術に対する理解を深めました。着物姿の女性や、浮世絵の構図で描かれた作品など、日本の文化を感じる絵画が多くみられます。

クラクフ国立博物館にある日本の美術品



歌川広重
名所雪月花より「井の頭の池畔財天の社雪の景」
1842-45年、木版／紙、クラクフ国立博物館蔵



作者不詳
鶴彫形風立
1880-88年、鋳造、彫金、緑青、ブロンズ、
クラクフ国立博物館蔵



磯田湖庵斎
舅娘
1772-75年、木版／紙、
クラクフ国立博物館蔵



スタニスワフ・ヴィスビヤンスキ [デザイン]
アンジェイ・シドル [製作]
椅子「ゾフィア&タデウシュ・ジェレンスキ
夫妻邸のための家具セット」より
1905年、松材、トネリコ材、トネリコの化粧板仕上げ、布張り、
クラクフ国立博物館蔵



アントニ・ヴォイチェホフスキ
婦人用編み上げブーツ
1904年、皮革、機械縫い、アププリケ、
クラクフ国立博物館蔵



スタニスワフ・ヴィスビヤンスキ [デザイン]
ガヨンシェク&ランコシュ、ケンティ [布地製作]
ヘレナ・チェレムガ [刺繍]、
刺繍のあるタペストリー (ベルメット)
1903-04年、ウール、平糸刺繍、
クラクフ国立博物館蔵

伝統を取り入れた新しいデザイン

郊外の農村や地方の素朴かつ広大な風景、そして色彩豊かな伝統文化や習慣はポーランドの魅力のひとつです。その地方の伝統や文様を取り入れた新しいデザインの家具や布模様などがたくさんあります。



カジミェシュ・ブジョフスキ [デザイン]
アントニー・ナンコルスカ・キリム工房、
ジェルニフ [製作]
キリム
1906年以前、羊毛、麻、キリム技法、意入り織物、
クラクフ国立博物館蔵



マクフ・ボトハランスキ国立刺繍学校
ハンドバッグ
1900年、刺繍、手縫い、
フェザー・ステッチ、サティン・ステッチ、
ボタンホール、スラム・ステッチ、リネン、
織物、ラフィアヤシ、刺繍用毛糸、
クラクフ国立博物館蔵